

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 (△02)

研究組織 久保田裕道、石村智、今石みぎわ、後藤知美(以上、無形文化遺産部)

目的 風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで収集・保管してきた無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行う。また選定保存技術についても情報を収集し、その中で重要なものについては現地調査・記録作成を行う。

成果

1. 無形民俗文化財に関する継続的な調査研究として、祭礼行事の調査研究(福岡県苅田町等)、民俗芸能に拘わる調査研究(岐阜県恵那市、沖縄県八重瀬町等)、民具製作・食文化に関わる技術等の調査研究(岐阜県美濃市、岩手県岩泉町等)を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響や休止による変容の実態などについても調査を行った。

また無形文化遺産と災害に関わる調査研究の一環として、宮城県女川町、福島県浪江町、福岡県苅田町等での調査を継続している。あわせて指導・助言として関わっている無形民俗文化財についても調査研究もしくは情報収集を行った。

2. 無形文化遺産アーカイブスの開発と公開として、文化財防災センターとの協力体制のもと「無形文化遺産総合データベース」の継続的な構築を行い、約10,000件のデータを公開した。またアーカイブ構築のための映像・画像等の収集等を継続的に行っている。

さらに記録保存・活用に関わる研究として民俗研究者である斎藤たまの民俗調査カード集の情報整理、民俗芸能研究者である永田衡吉所有資料の整理を行っている。

加えて令和元年度に作成したネパール・コカナ集落についての民俗誌を、現地コミュニティを訪れ配布するとともに、民俗的な無形文化遺産の保護について提言を行った。国内での調査研究方法を、海外に応用した形で普及啓発することができた。

3. 研究集会の開催として第17回無形民俗文化財研究協議会を、「文化財としての食文化」をテーマに開催した。新たに文化財の範疇に加えられた食文化について、各関係者・研究者等による発表と協議を行った。

4. 選定保存技術については、継続的な情報収集を行っている。

論文

- 後藤知美：「支援施策の変遷と民俗学のかかわり」『日本民俗学』310 pp.5-20 22.5
- 久保田裕道：「新型コロナ禍の民俗芸能」『日本民俗学』310 pp.110-118 22.5
- 今石みぎわ：「『遠野物語』の死と野生一序文の『獅子踊り』をめぐる」『現代思想 遠野物語を読む』50 (8) pp.319-328 22.7
- 後藤知美：「相互作用を生み出す場、民俗文化センター」『まつりは守れるか』八千代出版 pp.23-24 22.9
- 今石みぎわ：「模して祈る—小正月に木の花を作る」『Homo Mimesis 人類はなぜ模するのか』中條文具株式会社 pp.10-21 23.3
- 久保田裕道：「岩村町獅子芝居」『民俗芸能』100 pp.38-51 22.11

報告

- 久保田裕道：「天王船流しの伝承と変遷」津島神社祭典と天王船流し(共著)「現地調査記録」各地の類似行事・津島信仰の行事『由比北田の天王船流し』静岡市教育委員会 pp.43-51、81-91、124-138 22.3

発表

- 久保田裕道：「民俗芸能の伝承活動をめぐって」第60回北海道博物館大会 22.7.14
- 久保田裕道：Safeguarding and Utilization of Intangible Cultural Heritage, A seminar on Tangible and Intangible heritage (Aksheshvara nahavihar, Lalitpur, Nepal) 22.8.28
- 久保田裕道：「疫病退散の民俗芸能～箱根・御殿場の獅子神楽を中心に～」山梨県立富士山世界遺産センター 22.9.17

映像

- 今石みぎわ：「長良川の鶺鴒舟をつくる—鶺鴒舟プロジェクト2017の記録」 22.9

刊行物

- 後藤知美：『旅館おかみの誕生』藤原書店 22.5